を總て神山と稱し其頂の一方をヲヨミ一方をオホマ嶽と呼おほまは大麻なるべしと云れど大麻の麻を朝とせしならんとの說なれば是は適はず又一說に駿河國駿東郡大平村鷲巢神社ならんか祭神天日鷲命なるに因て鷲巢とも云しにや大朝は大麻にて村名の大平は大朝平と云し朝の省かりたるかと云るも牽强なり又一說に君澤郡大場村あり此大場の稱は大朝の訛轉にやと思はるなど云るも信がたければとらず今豆州志と靜岡縣の註進に從て之を記す

玉作水神社

祭神 水波能女命

今按式社攷證に引る駿河草云玉ノ祖ノ神を祭る又曰水德神瀨織津姫ならむか狩野川出水守護神ならんとありこの玉ノ祖ノ神と云るは玉作の字によりて云出たるものなるべければ信がたし玉作に座す水神と聞ゆれば水波能女神にますべきを瀨織津姫と云るは如何あらん故今之を訂せり

祭日 六月一日

社格 村社

所在 上香貫村 字黑瀨〇今屬駿河國駿東郡（駿東郡楊川村大字上香貫）

今按式社攷證に上香貫村舊社ともみえず玉作川の稱に協はざる社地なれば疑ひ無きに非ず一說に玉川村の神社なるべし玉作水は沸涌する清泉の玉なして流るゝよる起り玉作川の意なるべし玉川村に副て玉川又界川あり上源に

玉水池あり其玉川村は東岸にあり其西岸は駿河國にて玉川村あり此川に添たる諸村を索るに玉川村に愛鷹明神あり平田村に神明社ありされど考徵すべきものなしと云此玉川村由ありて聞ゆれど徵なければ考べき由なし故今姑く靜岡縣の註進に從ふ

楊原神社 名神大

祭神 大山祇命

神位 淸和天皇貞觀元年正月廿七日甲申奉レ授二伊豆ノ國從五位下楊原ノ神從五位上一十二年五月廿九日庚辰詔授二伊豆ノ國從五位上楊原神一正五位下一光孝天皇仁和二年十一月廿五日庚子授二伊豆ノ國正五位下楊原ノ神正五位上一

祭日

社格 鄕社

所在 下香貫村 字大宮〇今屬駿河國駿東郡（駿東郡楊原村大字下香貫）

今按豆州志に駿河國駿東郡香貫村に在り祀二大山祇命一配二木花開耶姫磐長姫一今は大宮又松彦明神と稱す相近きに楊原の地名あり今訛て八重原と云伊豆峯ノ記ニ曰三島大明神云々祠域に有二藥師堂一此神社中古迄兩香貫より江浦まで共祀す今唯香貫兩村の鎭守なり三島驛楊原にも楊原神社有て稱二第三宮一是香貫村邊駿河に隷せし故此に移し祀るとみゆ楊原の地名は神社に因て呼し也云々とあるが如くなるべし而るを一說に三島ノ驛楊原の地往古よりの鎭

座なるべしと云るは信がたし故ゝ今靜岡縣の註進と豆州志の說に從ふ

加理波夜須多祁比波預ノ命ノ神社

祭神

祭日

社格

所在

今按式社攷證に賀茂郡字佐美村留田ニ鎭ノ座ス天神社なるべし又は社傳にも然云ひ國圖にも此村に載せ豆志に天神社天速日命を祀る舊社なりとみえて此速日亦社傍に比波夜志と云地名ある等皆比波須より出たる稱と聞ゆるを以て證とすべしと云る由あれど一說に瀧山村天神ならんと云るは證なければ取がたし

劍刀乎夜爾命ノ神社 稱又大明神

祭神 劍刀乎夜爾命

祭日 一月十五日

社格 村社

所在 戸澤村 字小川原〇（田方郡川西村大字戸澤）

今按式社考證に豆志に當社の事を今云君澤郡戸澤村今劍刀明神又訛て多知乎預疑と云とあり此村二十戸に足らぬ小村にして舊社有べくも非ず他に徵證なしと雖も國圖にも然記され寛政元年碑文にも劍刀乎夜爾命神社とあるなどを思ふに既くより然稱へたること知るべし一說に谷田村小山の多賀神社なるべしと云るは谷田の稱と小山の地名の乎夜爾に通ふより云るにて證なし今按に大場村に赤王明神と云舊社あり赤王山の麓に笹原と云所有は神階記にさゝはらの明神と有社と聞え社傳に劍刀石床別命神社なる由傳へたれど小谷の奥まりたる所にして石床など云巖石なく乎夜爾の稱にかなへれば劍刀の冠辭より錯ひて石床別命とは訛りたるかと云れど明證とも云難し且縣の註進にも戸澤村と定めたれば之に從ふ

火牟須比命神社（明細帳伊豆山神社祭神同所鹽社）

祭神 火牟須比命
相殿 伊邪那岐命
伊邪那美命

祭日 三月十五日十六日

社格 縣社

所在 伊豆山村 字伊豆雄山〇今屬賀茂郡（田方郡熱海町大字伊豆山）

今按式社攷證に賀茂郡伊豆山村鎭座伊豆山神社と稱す此社は中世以還其名高く今も頗る大社にして神威嚴然なる事は人の遍く知るが如く往昔日金嶽鎭座なりし由走湯山緣起其外にもみえ古書に伊豆乃高嶺とも云て最高き山頂なるが上古猛火常に燃出其火光の斷ざるより火之峯許々